

第17回事業者活動部会では、平成27年度の取り組みとして、「かつしかルール」、「ごみ減量の日」、「マイバッグの利用促進」について検討いたしました。

そして、今回の検討結果については7月17日に開催される推進協議会で提案していくことが確認されました。

1. 部会長及び副部会長の選任について

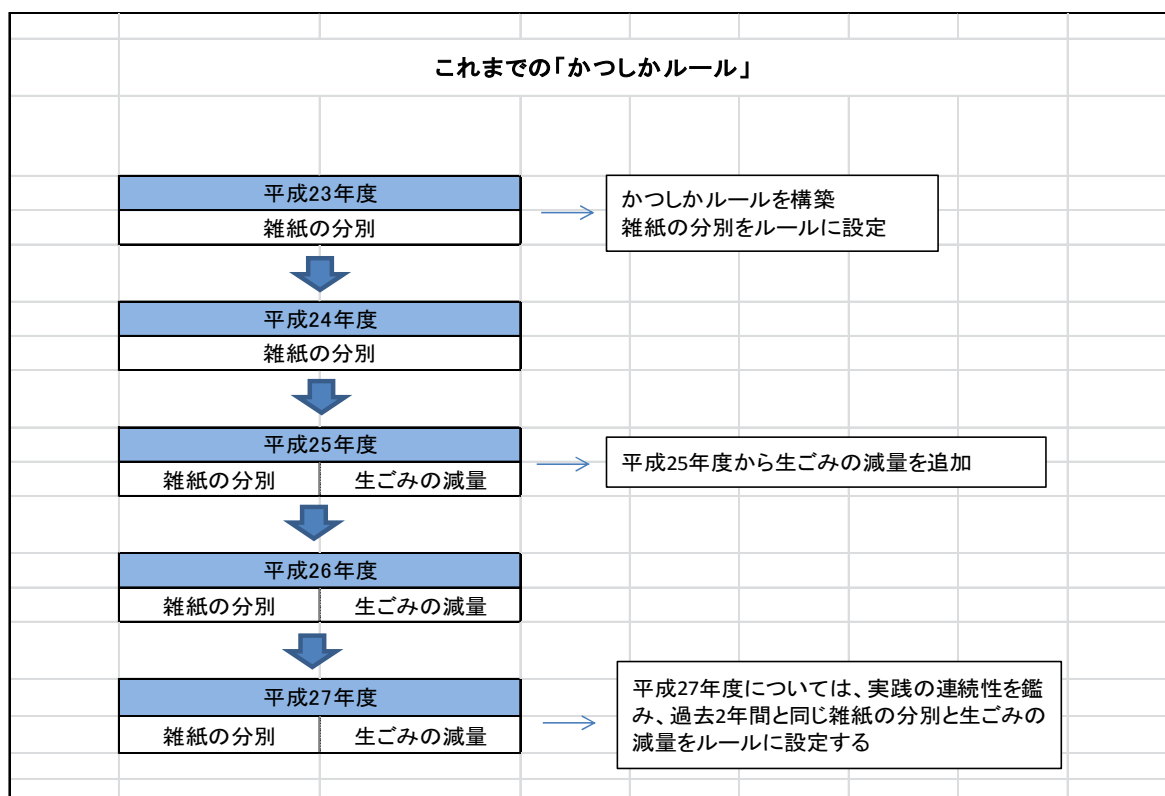
今回、委員の任期満了による改選に伴い、「かつしかごみ減量・リサイクル推進協議会 部会設置規約」第5条に基づき、部会長及び副部会長の選任を行った。

2. 平成27年度「かつしかルール」 具体的取組について (案)

かつしかルールとは
「ごみの量を減らし、
資源を良質なりサイクルにつなげるために、
みんなで行う取組」

- ① 容易に実践でき
- ② 多くの人に取り組むことができ
- ③ ごみ減量やりサイクルに貢献する誇りを持って取り組めるもの

(1) 平成27年度「かつしかルール」について



＜平成27年度のルール＞
『生ごみの減量に取り組む』
『雑紙（ざつがみ）を徹底して分別し、資源にする』

(2) 「かつしかルール」の目標値の設定

(ア) 『生ごみの減量』の目標値

- ・キャンペーン等での意識調査で生ごみの減量を実践している割合が80%以上

(イ) 『雑紙の分別』の目標値

- ・キャンペーン等での意識調査で雑紙の分別を実践している割合が80%以上
- ・燃やすごみから出るリサイクル可能な紙類を10%以下。

【参考：かつしかルールの目標値設定の根拠】

- ・26年度ごみ減量キャンペーンで実施したアンケート調査結果
生ごみの減量に取り組んでいる人の割合（多いものから2つ掲載）
生ごみの水切り 69.7% 食べ物の食べ切り 58.5%
雑紙を資源回収に出している人の割合 61.6%
- ・ごみの性状調査において、燃やすごみの中に含まれるリサイクル可能な紙類の割合
H21年度：14.4%、H24年度：12.5%、H26年度：13.7%

(3) 平成27年度の具体的な取組（案）

(ア) 広報紙での周知（9/15号）

ごみ減量月間の特集記事において「かつしかルール」の内容についてPRする。

(イ) 町会回覧での「食べ切り・使い切りメニュー」の発信（年2回）

「かつしかルール」の生ごみ減量を促進するため、自治町会連合会の町会回覧向けチラシに東京聖栄大学作成の「食材の食べ切り・使い切りメニュー」を掲載し、回覧を行う。

(ウ) 小売店・事業所などでの周知（年2回）

葛飾区商店街連合会、東京商工会議所葛飾支部で啓発ちらしを会員に配布してもらう。この中で、区内事業者には雑紙の資源化促進をPRしていく。

(エ) ごみ減量キャンペーンでの周知

ごみ減量キャンペーンでレジ袋削減を呼び掛けると共に、「かつしかルール」の生ごみの減量や雑紙の分別についての意識調査を継続して実施するほか、チラシの配布等を行う。

(オ) イベントでの周知

10月開催の環境緑化フェア、消費生活展、産業フェア、11月開催のごみ減量・清掃フェア等の各種イベントにおいて、体験型のゲームを通じ、広く「かつしかルール」について周知する。

(カ) 区のホームページでの周知

葛飾区のホームページの「かつしかルール」のページで生ごみや雑紙に関する各種情報を提供する。

(キ) 普及啓発グッズの配布

イベント等で普及啓発グッズを配布する。

(ク) かつしか FM での周知（年 2 回）

かつしか FM のスポット CM でかつしかルールの「生ごみの減量」、「雑紙の分別」についての PR を行う。

(ケ) 資源とごみの収集カレンダーでの周知

3 月に配布予定の資源とごみの収集カレンダーで「かつしかルール」に関する情報を提供する。

(コ) 出前講座等での周知

職員が実際に地域に出向いて実施する出前講座等で「かつしかルール」についての説明を行うとともに雑紙の分別や生ごみの減量に関するチラシの配布を行う。

事務局の提案の通り、チラシを活用した PR やキャンペーン活動の実施、その他区ホームページ等各種媒体を活用した周知活動を行っていくことで了承された。

< 委員からの主な意見 >

- 1 年に 1 回でもいいので、事業の成果を PR していくのはどうか。
- バーゲンなどがあるとついつい必要でないものまで買ってしまい、結局ごみになってしまうことがある。余計なものは買わないということを PR することも必要ではないか。
- 東京聖栄大学が作成した「食べ切り・使い切りメニュー」（エコライフプラザ通信に掲載）はとても参考になるので、PR していくことで生ごみの減量につながると思う。

3. 「ごみ減量の日」の取組について（案）

かつしかごみ減量・リサイクル推進協議会では、毎月5日を「ごみ減量の日」として区民、事業者それぞれの取り組むべき目標を提示し、呼びかけることにより、ごみの減量に対する活動の全区的な広がりを図っている。

そこで、今年度の具体的 PR方法や今年度の後半分である平成27年10月以降の取組内容について検討した。

（1）平成27年4月から平成27年9月までの取組内容

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・小売店の皆さんは…マイバッグの利用を呼びかけましょう・事業所の皆さんは…リサイクルしやすい環境を整え、できる限り紙類の資源化につとめましょう |
|--|

（2）平成27年10月から平成28年3月までの取組内容（案）

下記の通り案を提示した。

◎小売店の取組案・・・（2案を提示）

1	<p>「お客様に『レジ袋利用されますか?』の声掛けを心掛けましょう」</p> <p>マイバッグは持っけていても、家に埋もれていて使わなくなってしまうたり、手元にあっても出すのを忘れてしまったりで、レジ袋を利用してしまいがちです。レジで一声掛けることで、マイバッグの利用促進を図ることができます。</p>
2	<p>「ばら売りやはかり売りの実施や、お客様への声掛けなど、簡易包装を心掛けましょう」</p> <p>ばら売りやはかり売りは、包装紙の量を減らせるだけでなく、お客様側も必要な量だけを買えるというメリットがあります。また、レジではお客様に簡易包装をご希望でないか声掛けするようにしましょう。</p>

上記2案を検討する中で、事業者活動部会の意見として【1案】の「お客様に『レジ袋利用されますか?』の声掛けを心掛けましょう」に決定した。

◎事業者の取組案

1	<p>「分別を徹底して行い、ごみの発生を抑制しましょう」</p> <p>オフィスで発生するコピー用紙や、飲み物の瓶・缶等の分別をしっかり行うことで、ごみの発生量を抑制できます。また、ごみを出さない、無駄のない職場づくりを目指すことは、職場の業務効率化にもつながります。</p>
---	--

下記案を検討する中で、事業者活動部会の意見として「分別を徹底して行い、ごみの発生を抑制しましょう」に決定した。

<委員からの主な意見>

- ・「ごみ減量の日」の取組について、事例を紹介してみてもどうか。
- ・ごみの分別については、かなり個人差があると思う。若い世代へのごみの減量の必要性の周知・徹底が必要ではないか。

(3) PR展開

① 小売店向けPR

葛飾区商店街連合会がチラシを年2回作成し、商店街の各店舗に配布してPRを行う。チラシの裏面を店内に掲示できるポスター形式とし、それを掲示することで、区民への小売店の取組の周知につながるものとする。

② 事業所向けPR

東京商工会議所葛飾支部がチラシを年2回作成し、会員にダイレクトメールで配布してPRを行う。チラシの裏面を事業所に掲示できるポスター形式とし、それを掲示することで、事業所内で取組を周知できるものとする。

③ ごみ減量キャンペーンでのPR

10月の「ごみ減量の日」前後に行うごみ減量キャンペーン時に、取組を呼びかける内容を含めたチラシを作成し、配布を行うとともに、のぼり旗を設置する等PR活動を行う。

④ 広報かつしかやホームページ等でのPR

「ごみ減量の日」を広く普及する目的で、広報かつしかやホームページ、かつしかエコライフプラザ、かつしかエフエム等を利用したPRを行う。

また、毎月1日から5日までは区役所入口など4～5箇所にのぼり旗を掲げ、来庁者に対してPR活動を行う。

⑤ 新しいPR方法の検討

アンケートの結果を踏まえ、より広く区民の方に「ごみ減量の日」を知っていただくためにはどのような施策が有効か、区民啓発活動部会及び事業者活動部会の部会員の方に、事前に意見を募集したところ、以下のとおりご意見をいただいた。

- ・区立小、中学校へのチラシ配布等のPR
- ・ダイレクトメールでの案内など、地道なPR活動
- ・不特定多数へのチラシ配布では、チラシそのものがごみになることも考えられるので、駅やスーパー店頭などに「ごみ減量の日」当日、のぼりやポスターを掲出して啓発に努める。

- ごみ集積所にポスターを設置
- 地区センターへ「ごみ減量の日」のぼり旗を設置

今後のPR展開については、委員の方からの提案していただいたPR方法等を事務局で検討し、今後の取組の中に活かしていくことでした承された。

<委員からの主な意見>

- 区立小・中学校へのチラシの配布等のPRについて、チラシ配布はごみにつながる恐れもあると思うので、出前授業の方がよいのではないかと。
→（事務局）区内の幼稚園・保育園、小学校には、環境学習ということで、直接職員が出向いて周知活動を行っている。ただし、「ごみ減量の日」についてはまだ周知できてないため、保護者の方への周知も含め、PR方法を検討していきたい。
- 自治町会への加入率は現在60%ぐらいであり、未加入世帯への周知も必要だと思う。
- 集積所にポスターなどを貼って周知できればよいが、貼る場所がないという課題がある。商店街など人が集まる場所にポスターを貼って周知するはどうか。

<事務局>

- 区内イベント会場で実施したアンケート調査の結果では、「ごみ減量の日」を知っている人の割合が3割であったが、これは比較的若い世代の人が多いイベントであったことも影響していると考えられる。今後は若い世代向けのPRも検討していきたい。

4. マイバッグ利用促進について

(1) 商店街マイバッグ制度

推進協議会では、マイバッグを「持っているから使っているへ」区民の意識の転換を図るため、スタンプカードを活用したマイバッグの利用促進に向けた取組を実施している。

(2) 平成27年度取組について（案）

(ア) 実施内容

区内の商店街でレジ袋を断って、マイバッグでお買い物をしたお客様にスタンプカードを配布し、レジ袋を断るたびにスタンプカードにスタンプを押して、ある一定のスタンプ数（商店街により任意）が貯まったら景品「りー（Ree）ちゃんペーパー（6P）」（トイレットペーパー）と交換する。

(イ) 実施場所 お花茶屋商店街・千代田通商店街

(ウ) 実施商店街に対する支援

(i) スタンプカード・ポスターの配付

実施する商店街には、押印するスタンプカード 1,000 枚、および、店頭に掲げる啓発ポスターを区が作成し、配付する。

(ii) 景品の支援

景品用の古紙再生のペーパーである「りー（Ree）ちゃんペーパー（6P）」（トイレットペーパー）を100セット区が購入し、現物を支援する。それ以上景品を必要とする場合には商店街の持ち出しとする。

(エ) 実施結果の確認

実施商店街に対して、参加店舗数、景品交換数、実施前と後のレジ袋の使用数の変化、お客様の反応、商店街の感想について報告してもらうものとする。

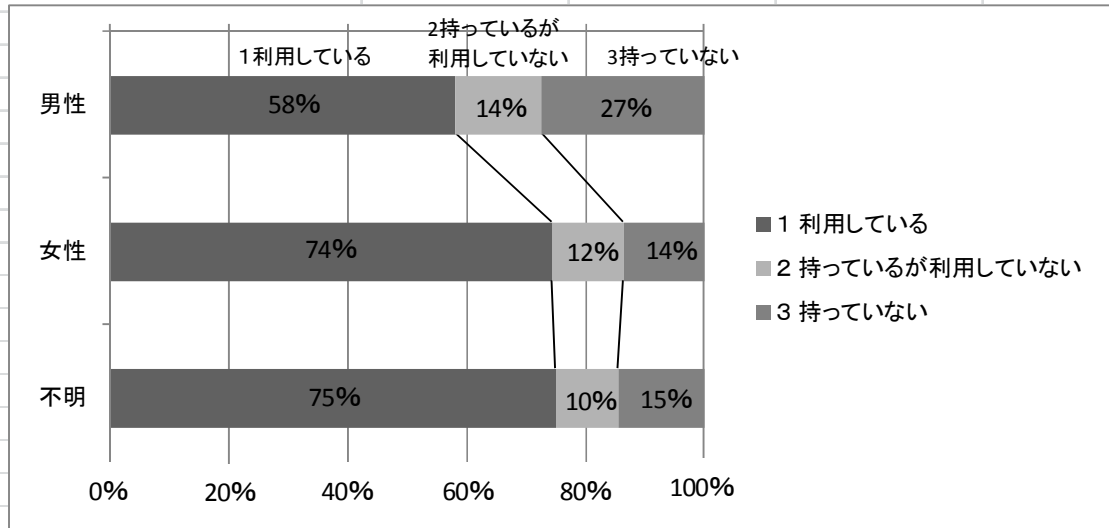
(3) 今後のマイバッグ利用促進取組

継続実施していく中で、運用方法についてノウハウが蓄積され、経常的に実施できる下地が整ったといえる。27年度も引き続きより多くの方にレジ袋を断っていただけるよう働きかけを行っていく。

平成26年度に実施した「ごみ減量・リサイクルに関する区民アンケート調査結果」から、マイバッグの利用には、男女差が大きいことが分かった。今後も引き続き啓発活動を行っていくとともに、いかに男性の利用を呼び掛けていくかについても検討していくことが必要である。

葛飾区におけるマイバックの男女別利用状況

選択肢	男性	女性	不明	合計
1 利用している	223	371	36	630
2 持っているが利用していない	55	60	5	120
3 持っていない	105	68	7	180
4 不明	4	9	5	18
合計	387	508	53	948



【参考】平成26年度の実施結果について

◎お花茶屋商店街

- ・実施期間 平成26年10月1日（水）～平成27年3月31日（火）
- ・参加店舗 53件
- ・内 容 レジ袋を断った店舗でスタンプを押印。20ポイントスタンプが貯まるとリー（Ree）ちゃんペーパー（ティッシュ）と交換
- ・カード回収枚数 110枚
- ・実施した商店街の感想
リー（Ree）ちゃんスタンプカードの参加者が毎年少しずつ増加してきている。

◎千代田通商店街

- ・実施期間 平成26年11月1日（水）～平成27年3月31日（火）
- ・参加店舗 25件
- ・内 容 レジ袋を断った店舗でスタンプを押印。30ポイントスタンプが貯まるとリー（Ree）ちゃんペーパー（ティッシュ）と交換
- ・カード回収枚数 121枚
- ・実施した商店街の感想
マイバックキャンペーンの問い合わせはあるが、景品が目当ての感じを受ける。根本的な見直しが必要ではないかと思う。

◎千代田通商店街及びお花茶屋商店街からの提案

マイバッグ利用促進と併せて、少量点数をお買い求めのお客様へのレジテープ対応も、レジ袋削減の効果的な取り組みだと思う。

啓発用のレジテープを作製し、少量点数の買い物が多い区内の商店街やコンビニエンスストア等に設置を依頼し、レジ精算の際にシールのみでよいか声かけを実践していくような仕組みを検討してみてもどうか。

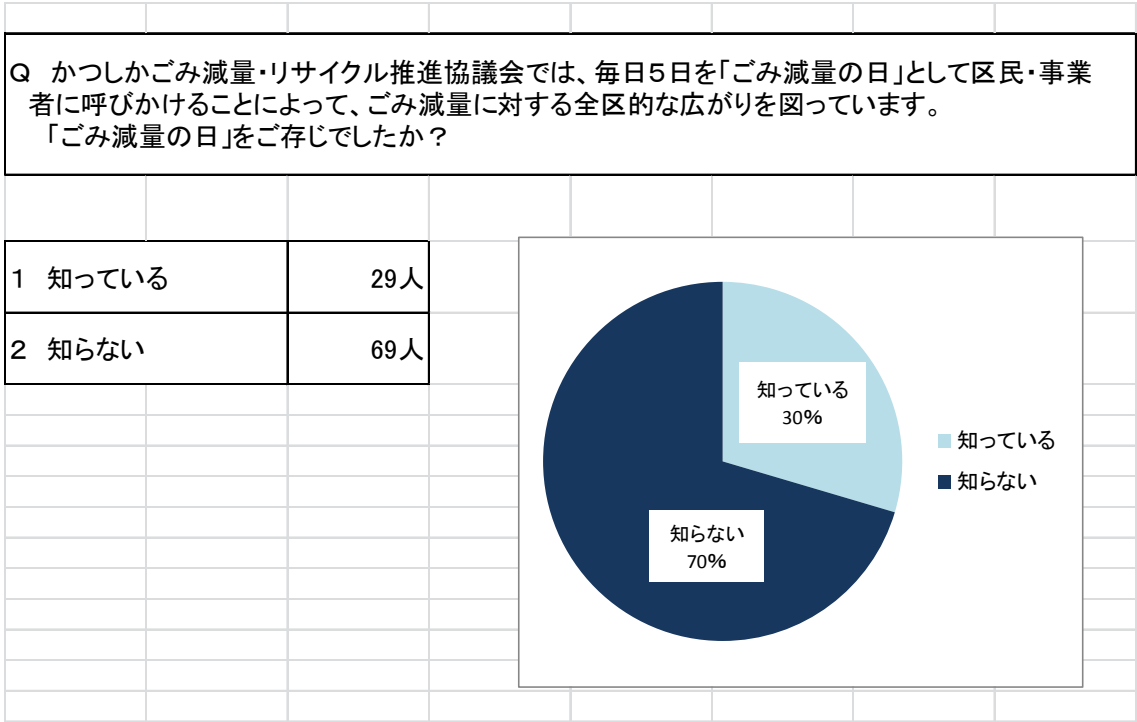
マイバッグの利用促進については、「商店街マイバッグ利用ポイント制度」について引き続き実施するとともに、レジテープを使用したレジ袋削減の取組など、実施にむけて検討していくということを事業者活動部会の意見としてリサイクル推進協議会に報告することで了承された。

5. その他の意見

- ごみの減量が何のために必要なかを理解していただくことが大切。埋立処分場など現場を見ることにより、ごみ減量の必要性が分かり、意識が変わってくる。

◎ 「ごみ減量の日」の区民の周知度

「ごみ減量の日」の区民への浸透度を調べるために、5月に開催された2イベント会場でアンケート調査を実施したところ、下表のとおり約70%の区民の方が「ごみ減量の日」を知らないという結果になった。



アンケート実施会場
 平成 27 年 5 月 16 日 かつしかエコライフプラザ フリーマーケット
 平成 27 年 5 月 17 日 わんぱく相撲大会